

# 左近山高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校 小規模校対策検討委員会ニュース 第3号



発行日：平成24年2月7日

発行：検討委員会事務局



## 第3回検討委員会 開催

■日時 平成24年1月21日（土）10時00分から

■場所 左近山第二小学校コミュニティハウス

### 決定事項等

- 3校の教育環境改善のための小規模校対策は、通学区域の変更では困難と判断し、今後、学校統合を前提に検討していくことになりました。
- 次回検討委員会から、①統合手法、②統合校名、③統合時期、④使用する学校施設について検討していきます。



## 1 小規模校対策について

### (1) 左近山第一小と本宿小の学区変更について

#### ◎特別調整通学区域に関する本宿小アンケートについて

本宿小の通学区域の一部には、就学時に本宿小以外にも左近山第一小を選べる特別調整通学区域が設定されています。どのような理由で本宿小を選んでいるのかを知るため、前回の検討委員会後、特別調整通学区域内から本宿小へ通学している児童の保護者を対象にアンケートを実施しました。

●結果

配布人数	回答人数	回収率 (%)
210人	172人	81.5%

●本宿小学校を選んだ理由は何ですか？（複数回答あり。）

	理由	回答者数	割合
1	子どもの友達がみんな本宿小に通っているから	70名	40.7%
2	その他	65名	37.8%
3	本宿小の方が近いから	59名	34.3%
4	本宿小の方が規模が大きいから	39名	22.7%
5	入学時、2校を選べる地域に設定されていなかった	32名	18.6%
6	本宿小の方が安全に通えるから	24名	14.0%
7	自分がかつて本宿小に通っていて、子どもも通わせようと思ったから	12名	7.0%

→ その他の中で多かった回答

・兄弟が通っている（通っていた）から  
41名（23.8%）

#### ◎通学区域変更に関する地域・PTA・学校の意見◎

##### 【自治会・町内会からの意見】

・町内会で会合を開き、特別調整通学区域の中で、左近山第一小を選んだ理由を聞きました。2校を選べるようになってから最初に左近山第一小を選んだ方は、左近山第一小が母校であることと、距離、安全性を考え選び、近隣でこの方後に入学する方は、それに続いたようです。また、両校の状況を確認して、選んでいるとのことでした。

・もし左近山第一小に学区変更した場合は、自治会が半分に分かれてしまいます。現在は、工夫して活動しているのですが、それが分かると行事等でいろいろな問題が出てくるのではと思います。現状のまま2校を選べる方法が一番いいという意見が大勢でした。

##### 【本宿小関係者】

・学区の中には昔から住んでいて、ずっと本宿小に通っている伝統的な家もたくさんあると思うので、その地域イメージを無くすというのは難しい作業だと思います。あとは、保護者の方が通学路の山坂や暗いところを通るなどについて、考えながら学校を選択しているの、その辺を解消するのは難しいと思いました。

・本宿小に近い方は本宿小を、左近山第一小に近い方は左近山第一小を選んでいきます。また、山坂があるので、そのあたりも選ぶ際に関係していると思います。

#### ◎その他の意見◎

・私の自治会は、関係する小学校が3校あり、地域の行事を行っても完全に分断され、コミュニケーションがとれないことで困っています。これを考えると、学区変更には疑問を持ちます。現実に苦労しているので、そこを考慮し、学区変更について検討する必要があると思います。

前回検討委員会から引き続き、通学区域変更による小規模校対策について検討した結果、通学区域変更での小規模校対策は困難なため、今後は学校統合を前提に検討していくことになりました。

## (2) 統合した学校の話

前回の検討委員会で、統合を経験した学校の話をもとに第3回検討委員会で伺うことになったことから、平成18年度に統合した並木中央小学校（金沢区）の酒井宏校長をお招きしました。

◎並木中央小学校について

並木第二小学校、並木第三小学校が統合し、平成18年度、並木中央小学校が開校しました。

昭和55年 4月 1日 並木第二小学校開校  
 昭和56年 9月 1日 並木第三小学校開校  
 平成16年 6月 16日 第1回並木地区小規模校再編検討委員会  
 平成18年 4月 1日 並木中央小学校開校

◎酒井宏校長プロフィール

平成17年4月1日～ 並木第二小学校校長  
 平成18年4月1日～ 並木中央小学校校長



### 酒井校長とのやりとり

委員からの質問に酒井校長が回答する形式で行いました。

凡例:

検討委員

酒井校長

2校のPTAが1つになるのは難しかったと思いますが、どのようにしたのですか？

PTA会長の選出に一番悩みました。実際には**最初に会長を選出しない**という手法を取りました。それぞれの学校から候補を挙げていただくとうまくいけば、勝ち負けというように思いを生じる可能性が高いと考えたからです。そこで、まず2校から2人ずつ副会長の候補を挙げていただき、校長の私と4人の副会長の5人で話し合いながら互選で会長を選びました。

学校が統合したときに、それぞれの学校が持っている特色などはどのようにまとめたのですか？

地域の皆さんには「それぞれで培ってきた**学校の良さをいい形で、心の中にしまいこんでいただきたい。その代わり、統合して校名も変わる新しい学校は、皆で新しい伝統文化を築いて、新しい学校として立ち上げさせていただきたい**」とお願いしました。統合したときに地域、保護者の中で大事にしている宝物に傷が付いてしまい、どちらの宝物も磨かれるというのは難しいです。お気持ちは重々わかりますが**みんなで夢を持って新たな学校を創り上げていくというのが一番良い**と思います。

まだ納得いかないところもありますが、確かに言われるようなほうがいいのかと思います。でも、我々としては、今まで一生懸命に力を入れていたのが消えてしまうというのは残念な気がします。

今まで1つの学校でやっていたことを全面否定するというのでしょうか。

そうではありません。「うちの学校ではバスケットが盛んだったから続けてください。」「うちの学校ではサッカーが」「うちの学校ではマーチングが」というお話があっても、それぞれの学校は1つの良さに絞ってきたから可能だったので、それを**全部行えば学校は疲弊して潰れていく**と思います。それぞれの**学校の良さを十分確認しつつ、みんなで悩んで新しい学校**として何をしていくのか、そういう検討がとても重要なことでした。

前の学校ではこうだったという声も、子どもの中から聞こえなくなったのはいつぐらいになってからですか。

短ければ**3ヶ月**でそういった話は出なくなります。統合して初めての卒業式で、**統合で一番辛いはずの6年生が「統合してよかった」「友達が多くなって良かった」「一番の思い出になった**」と言ってくれました。スタート時の子どもたちは「なぜ自分たちの時に統合なんだ」「自分たちは5年間も勉強してきた学校でなぜ卒業できないんだ」「なぜ名前が変わっちゃうんだ」と当然思います。そうであっても、3ヶ月、半年経過すれば、ほとんど前の学校のことは語らないようになりました。

PTAとして**不安は大いにあります**。自治会と同じで今までやってきた蓄積があるために成り立っている部分は当然ありますので、やり方が変わることで不安はあります。ただ、今日、良いお話を聞けたと思っただけで、**新しい学校を創っていくのだから全員を全員の認識として持つ**ということです。**困難に立ち向かうという気持ちを我々保護者も自治会の方と一緒に持っていない**はいけません。**子どもたちが順応していくのに、親や地域が順応できないのでは、示しが見つからない**と思います。

いろいろな話を聞く中で**子どもたちのことを第一に考えた時に、やはり統合した方がメリットが大きい**と思いました。子どもの社会性という意味でも危機感を感じています。少ないがりの良いところはありますが、子どもたちが大人になってからそれを受容していくというのは、大変なことではないかと思えます。どのような方向性になっても親として**子どものために最大限応援してあげたい**です。

統合で予想していなかったのが、**保護者の友達関係が広がった**ということです。学年に1学級しかない、親もずっと同じグループで、考え方の多様性がなくなるという心配があります。保護者が一定の方向性に固まると、活性化したPTAというのは難しくなります。親が柔軟に多様に意見交換し、日常的な友人関係が多岐にわたることで、**まちはとても和やか**になります。

統合して困ったことや大変だったことはありますか？

統合は**開くことより、閉じることの方が難しかった**です。統合後は、学校づくりという当然この学校もやるべき仕事を行うので、さほど難しいわけではないですが、統合するまでが難しいです。なぜなら、それぞれのPTAや地域との関わりの中で生まれたものを、どういうふうに関わっていくか。開くことは夢を持てますが、閉じることには夢を持ってません。実は、統合前には相当なご意見をいただきました。統合は**閉じる方がどんなに胸を痛めるか**。もし、今後そういう時期がくるとすれば、いかに閉じるかということを考えなければいけないと思います。**良い学校だったのにという思いを残さないために、学校を閉じるときに、思う存分良さを味わえるような閉じ方が必要**であり、それぞれの学校でどのように閉じていくかをPTA、地域、学校でよく相談しながら閉じることが大事です。

統合が決まってから、学校として子どもたちにどのようにケアをしていったのですか？

統合に向けての準備として**学年交流、合同の全校遠足**など、相互の学校で行事計画を立て、できるだけ同一学年が同じ経験をしながら、交流できるよう計画的に準備を進めていきますので、**統合してから友達を知ることはありません**。交流の中で、大きい名札をつけたり、遊びや給食での交流をしたりなど、地道に準備をしていきますので、大人が考えるほど、子どもたちはさほど心配ありません。**ただ6年生はきちんとケア**を行いました。気持ちを受け止め、最後の1年なぜ自分の学校で卒業できないかというところに向けて、学校としては手を尽くしていかなければならないと思います。

# 学校統合に関する事務局からの提案について

今後、学校統合を前提に検討していくということで、事務局から学校統合に関する案が示されました。

## (1) 統合手法について

	【A案】 3校統合	【B案】 2校統合 (左近山小高小+左近山第一小)	【C案】 2校統合 (左近山小高小+左近山第二小)																																																						
統合後の通学区域																																																									
統合後の規模	◎3校の小規模化が解消し適正規模校となることで、3校の教育環境向上を図ることができる。	×左近山第二小の小規模化が解消されず、教育環境向上を図ることができない。 ×たとえ統合しても、平成30年ごろには、小規模校に戻る事が十分見込まれる。そのため、近い将来、再び左近山第二小との学校統合の検討が必要となる。	×左近山第一小の小規模化が解消されず、教育環境向上を図ることができない。 ×たとえ統合しても、平成30年ごろには、小規模校に戻る事が十分見込まれる。そのため、近い将来、再び左近山第一小との学校統合の検討が必要となる。																																																						
統合後推計	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童数</td> <td>751</td> <td>748</td> <td>733</td> <td>711</td> <td>717</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>		H25	H26	H27	H28	H29	児童数	751	748	733	711	717	学級数	22	22	22	21	22	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童数</td> <td>437</td> <td>431</td> <td>414</td> <td>401</td> <td>383</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>		H25	H26	H27	H28	H29	児童数	437	431	414	401	383	学級数	13	13	13	13	12	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童数</td> <td>462</td> <td>460</td> <td>444</td> <td>436</td> <td>459</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>		H25	H26	H27	H28	H29	児童数	462	460	444	436	459	学級数	15	15	14	13	14
	H25	H26	H27	H28	H29																																																				
児童数	751	748	733	711	717																																																				
学級数	22	22	22	21	22																																																				
	H25	H26	H27	H28	H29																																																				
児童数	437	431	414	401	383																																																				
学級数	13	13	13	13	12																																																				
	H25	H26	H27	H28	H29																																																				
児童数	462	460	444	436	459																																																				
学級数	15	15	14	13	14																																																				
通学距離	統合後、どの学校を使用することになっても、適正な通学距離の2キロを超えることはない。 ただ、地形上高低差があり、場所によっては通学時に現在より若干負担感あり。	統合後、どの学校を使用することになっても、適正な通学距離の2キロを超えることはない。	統合後、どの学校を使用することになっても、適正な通学距離の2キロを超えることはない。 ただ、地形上高低差があり、場所によっては通学時に現在より若干負担感あり。																																																						
地域コミュニティ		左近山あさひ自治会が分断されたままになるが、学区変更可能。たとえ統合校の方に入ることになっても、児童数は各学年1桁のため、学級数に影響はほぼ出ない。																																																							
その他	・どの学校が統合校になっても、保有普通教室を超えてしまうため、増築必要。 ただし、増築に合わせ、施設の老朽化対策として大規模な改修が検討可能。 ・将来、左近山中の小規模校対策も検討する必要がある。	・さらなる統合の可能性があり、将来どの学校を使用していくかという判断ができないため、大規模な改修の検討はできない。 ・将来、左近山中の小規模校対策も検討する必要がある。	・さらなる統合の可能性があり、将来どの学校を使用していくかという判断ができないため、大規模な改修の検討はできない。 ・将来、左近山中の小規模校対策も検討する必要がある。																																																						

## (2) 使用する学校施設の検討について

	案1 左近山小高小を使用した場合	案2 左近山第一小を使用した場合	案3 左近山第二小を使用した場合
建築基準年度	昭和51年(築35年)	昭和42年(築44年)	昭和45年(築41年)
校地面積(※)	12,379㎡	11,591㎡	13,644㎡
保有普通教室数	18教室	19教室	19教室
通学距離	2キロを超えるところはない	2キロを超えるところはない	2キロを超えるところはない
学校施設	・3校統合の場合、普通教室が不足するため、増築が必要	・3校統合の場合、普通教室が不足するため、増築が必要	・3校統合の場合、普通教室が不足するため、増築が必要
校地	・校舎とグラウンドに高低差がある。 ・法面(斜面)が多い。	・3校で校地面積が一番狭いが、法面(斜面)が少ない。(※)	・校地面積が一番広いが、法面(斜面)が含まれ、平坦な部分の面積が少ない。(※) ・土地が不整形。
その他	・敷地に高低差があるため、増築した場合、増築棟と現在の校舎に段差が生じる。 ・左近山第一小で通級指導教室が運営できなくなるため、移動の検討が必要。	・通級指導教室を移動させる必要がない。	・左近山第一小で通級指導教室が運営できなくなるため、移動の検討が必要。

※校地面積には、法面(斜面)等の面積も含まれるため、平坦な部分の面積とは異なります。

事務局から、統合手法について、3つの案が提示されました。また、今年度中に大きな方向性を決めてほしいという話がありました。次回検討委員会から、①統合手法、②統合校名、③統合時期、④使用する学校施設について、子どもたちのことを第一に考えながら具体的に検討していきます。

【学校統合に関する事務局からの提案について】

- ☆ 左近山中に関し、将来、小規模校対策を考える必要があるという説明がありましたが、左近山中のところに小学校と中学校を併設することはできないのでしょうか？
- そういったことは考えられるかと思います。ただ、今回は、左近山中も合わせて学校統合となると本宿中も当然関わってきますので、時間がかかると思います。今回は、左近山地区の中での統合ということで考えていただければと思います、このような案を提案させていただきました。
- ☆ 先ほど通学区域の変更では小規模校対策が困難、ということが確認されたのですが、いびつな学区がある中で、その調整は行わないのかということと、今後、特別調整通学区域をどうするのかについて、伺いたいです。
- 統合の手法をご検討いただいた後、あるいはそれと合わせて通学区域の調整をご検討いただければと思います。3校または2校を合わせた通学区域が基本となりますが、それで支障が出る部分があれば、合わせて通学区域の変更あるいは特別調整通学区域の設定についてもご議論いただきたいと思います。
- ☆ 左近山第一小の特別調整通学区域の人数が統合後の推計の中に、どのように反映されているのか教えてください。
- 特別調整通学区域が設定されている地域から左近山第一小へ通学している今までの傾向を踏まえて、未就学のお子さんが同じような割合で通学するという見込みで左近山第一小学校の推計の中に反映させています。

【ご意見・ご提案など】

- ☆ 今まで統合した学校で、統合時は適正規模でも、統合後しばらくしたら小規模校に戻ってしまうところがあるようですが、そういった学校は今後どうしていくのですか。
- 統合後、小規模校になってしまったときに、さらなる統合というのは当然考えられますが、統合を経験した子どもたちが2度目の統合を経験することは避けなければいけないと考えています。そのため、当面は様子を見て、統合校の通学区域の調整等で適正規模化が図れないかを検討していきたいと思います。
- ☆ 統合後小規模校に戻ったら様子を見るということですが、それでは今検討している意味がなくなってしまいます。例えば、左近山地区に大きい学校を作り、そこに子どもたちを集めるなど、2、3年たって小規模化していくということであれば、思い切って総合的に検討した方が良いと思います。地域全体が1つの学校に行くとなれば良いのではないのでしょうか。
- ☆ 迅速に進める上でも各団体で追加で検討していただきたいのが、統合時期と統合校の校名です。検討委員会を始めてから2年後の統合が今までの流れであり、今回は平成25年4月開校というのが1つの目安だと思いますので、それでいいのかということと、また、統合校の新しい校名については、過去の検討委員会では、アンケートをとったりしているようですので、検討委員会の中で決めるのか、あるいはアンケートをとって決めるのがいいのかということについてです。

◎検討委員会の委員について

今回の検討委員会から、エルフィーノ自治会会長の吉川雅浩氏が委員として加わりました。

【第4回検討委員会の日程】

★平成24年2月25日(土) 14時から 左近山小高小学校にて

★検討予定内容(案)

- 1 学校統合について
  - (1) 統合手法について
  - (2) 統合校名について
  - (3) 統合時期について
  - (4) 使用する学校施設について
- 2 その他



「左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧になれます。

- ・基本方針など <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>
- ・左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/sakonyama.html>



「左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」では、皆さまからのご意見を受け付けております。FAXかEメールにて、事務局(学校計画課)までご連絡ください。

\*「左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」事務局(学校計画課)

TEL:045-671-3253 FAX:045-651-1417  
Eメール:ky-sakonyama@city.yokohama.jp

旭区のキャラクター  
あさひくん

